

大震災の雲南省学校再建に協力

旭中学校に感謝の旗

麗江県の小学校から届く



宮本さん(右)から旗を受け取る大東君

旗は縦約八十センチ、横約六十センチ。中国語で「中国と日本の子供の友情が玉竜山(中国の山)や富士山のように長く続くように願う」と書かれている。

同中では生徒会が中心になり、四月から五月にかけて約二週間、募金活動を行い、義援金四万三千六百五十三円と鉛筆やノード、消しゴムなどの文房具をAMDAに寄付した。

五月末に岡山市南方、長泉寺住職宮本光研さん(五三)が現地を訪れ、文房具と、中国人の同中三年劉磊君が書いた励ましの手紙を海東完心小学校に持っていったところ、今月二日にお礼の旗を手渡された。

「感謝の旗」の贈呈は旭中体育館で行われ、宮本さんが全校生徒に「みなさんの気持ちがかもった鉛筆や筆入れに、中国の子供たちは歓声を上げて喜んでくれました」と報告。生徒会長

義援金などAMDAに寄付

AMDA(アジア医師連絡協議会)の中国雲南省学校再建プロジェクトに協力した岡山市立旭中学校(寺尾宗徳校長、二百八十八人)の生徒会へ十二日、同省麗江県拉市郷の海東完心小学校から「感謝の旗」が贈られた。

の三年大東正昂君に旗を手渡した。
大東君らは「思ってもみなかったので、うれしさでいっぱい」と感激。夏ごろまでは雲南省への支援を続ける、と話している。

麗江県では、今年二月、マグニチュード7.0の大地震に見舞われ、百万人が被災。半数以上の学校が全半壊しており、AMDAは学校再建のための協力を呼びかけている。